



毎週金曜日発行

*Nano* 東大阪市議 中西のぶひろの

# 週刊なのタイムス

～東大阪の市政や地域情報をお伝えする～

第46号 令和4年11月25日発行

発行：東大阪市議会議員 中西のぶひろ  
住所：東大阪市瓢箪山町2-14  
連絡先：(TEL)072-982-5127 (FAX)072-985-6972  
携帯：090-8164-5857  
メール：nakanishi.jimusho@gmail.com  
ホームページ：https://www.nanotimes.net/

## ■ F C大阪が、J 3に参入

東大阪市をホームタウンにするサッカーチームF C大阪が、11月20日の最終戦でM I Oびわこ滋賀に1対1で引き分け、今シーズンは17勝5敗8分けの好成績でJリーグの下部組織であるJ F Lで2位に入り、J 3に入会するための順位要件をみました。J 3に入会するには総数3万人（1試合平均1千人）という観客動員数要件も満たさなければならず、最終戦を前にしてあと3,732人の観客が必要でしたが、花園第一グラウンドには12,183人の人が応援にかけつけ、観客動員要件も満たし、見事J 3入りを果たしました。期せずして、Wカップカタール2022が始まる時にJ 3入りが決まり、幸先のいいスタートです。

わがまち東大阪をホームタウンにするチームですから、私たち市民も愛着がわきますね。来シーズンからJ 3でプレーしますが、J 1が18クラブ、J 2が22クラブ、J 3が20クラブと全部で60クラブあり、J 1でプレーするのを見るのはまだまだ大きな壁があることと思いますが、選手に皆さんもJ 2からJ 1目指して頑張ってほしい、サポーターも一緒に夢を持って、上の舞台を目指しているチームを応援しよう。



## ■ Wカップカタール2022の初戦、日本がドイツに歴史的勝利！

日本時間23日午後10時からスタートしたドイツとの試合は、前半に1点先取されたものの、後半に交代して入った選手が次々に活躍し、森保監督の戦術も見事に的中し、過去4回優勝の強豪ドイツに2対1で逆転勝ちし、歴史的な勝利を収めました。

森保監督は日本人として3人目の監督ですが、これまでの二人は4年間の強化の途中でやめた監督の後を引き継いだものでしたが、森保監督は4年間交代もなくじっくりと一貫したチームづくりをしてきたように思います。選手も26人の代表のうち19人が初選出の選手たちですが、さらに19人が海外のチームで活躍する選手たちで、1点先取されても落ち着いていて自信に満ちているように感じられました。また後半に交代で出場した選手が期待通りの活躍をして、ベンチを含め心が一つになって一体感や結束力を感じることができました。この記事を書いているのは、試合から2日経った25日で次のコスタリカ戦のことはわかりませんが、今大会で目標にするベスト8の壁を破るんじゃないか、と大いに期待を持たせるチームです。

### ★ドーハの悲劇と歓喜

1994年に、同じカタールドーハで行なわれたアメリカWカップ予選で、イランに2対1でリードし勝利して初出場の切符を手に入れかけていた時に、ロスタイムの終了直前に同点に追いつかれ、出場を逃したことは「ドーハの悲劇」と呼ばれていますが、選手として「ドーハの悲劇」の当事者の一人でもあった森保監督が、28年の時を経てドイツ戦の勝利で今度は「ドーハの歓喜」の主人公になるというのはすごいドラマです。このドラマがまだまだ続く予感を感じさせます。選手の皆さんには、結果だけに一喜一憂せずに、自分たちのパフォーマンスを続けてほしいですね。今後のドラマの展開が楽しみです！

## ■ JALが、国内初「CO<sub>2</sub>排出実質ゼロ」フライトを実施

11月18日に、日本航空（JAL）が日本で初めて運航時のCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量の実質ゼロ（カーボンニュートラル）を実現する「サステナブルチャーターフライト」を、羽田～那覇間で行なったことがニュースになりました。使用する旅客機は、省燃費を特徴とするJALの最新鋭機であるエアバス A350-900で、従来機よりCO<sub>2</sub>を15%～25%程度削減することができ、また使用機のほか搭載燃料もCO<sub>2</sub>の大幅な削減が期待されている次世代燃料「SAF（持続可能な航空燃料）」を約



38%使用しています。この「SAF」は、化石燃料以外を原料とするジェット燃料で、たとえば動植物油脂や廃食油、都市ゴミなどを原料に製造されます。従来の燃料と同等のクオリティや規格を維持しながらも、CO<sub>2</sub>排出量の削減効果が加わる画期的な燃料といえます。

さらには、運行時のエンジンの始動を工夫して使用燃料を削減するなどの運行方法を取り入れて、カーボンニュートラルフライトを実現しました。JALは「安全・安心」と「サステナビリティ（持続可能性）」をテーマにして2030年までに目指す姿を体験できるツアーとして位置付け試験的に実施しましたが、さらに2050年までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指すことを掲げ、サステナブル（持続可能）な社会の実現のために「地球環境や社会に対してしっかりと胸を張って誇らしいものだと言える空の旅を作り上げる」ことを目標にしているということです。

## ■ 廃食油などを原料とするSAF、大手会社が2024年から製造開始



SAFの実用化のためには生産や商用化が遅れているという問題が指摘されているとき、ちょうどタイムリーなニュースに接しました。大手商社が不動産会社と連携して東京丸の内ビルから出る廃食油を回収し、コスモ石油やENEOS、出光興産などの大手が、2024年からSAFの製造を始めるということです。（11

月24日 NHKニュースおはBiz） 航空機のような大量の燃料を消費し、大量のCO<sub>2</sub>を排出している業界で、持続可能な航空燃料「SAF（Sustainable Aviation Fuel）」が安定的に供給できるとなると、従来の航空燃料に比べて温室効果ガスの排出量の大幅な削減が期待できるとともに、他のエネルギー政策にも大きな影響を与えることになるでしょう。世界的にCO<sub>2</sub>排出量削減への対応が求められるなか、航空業界において海外を中心に既にSAFの導入が始まっており、国内でもSAFの技術開発・製造・流通および利用を加速させる必要があります。

